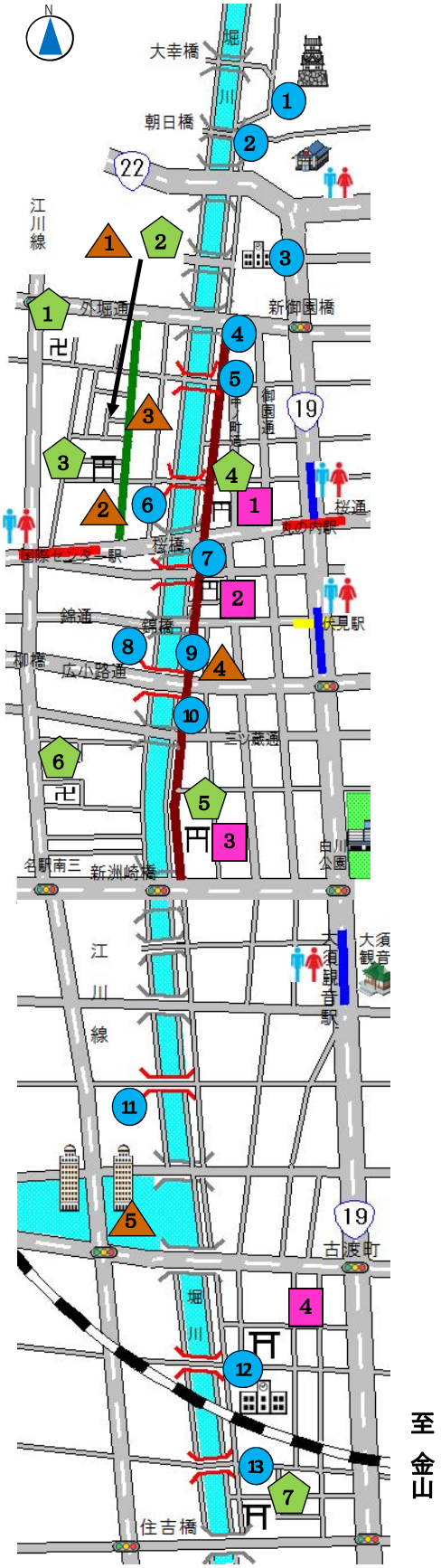
堀川七橋界隈スマホdeまちあるき　見どころマップ



は堀川七橋です

＊地図の縮尺は、実際とは異なります。

堀川七橋コース

1. 辰之口水道大樋
2. 堀川堀留の碑
3. NHK放送記念碑
4. 木挽町通
5. 五条橋
6. 中　橋
7. 伝馬橋
8. 錦通命名由来碑
9. 納屋橋
10. 納屋橋掘割跡
11. 日置橋
12. 古渡橋
13. 尾頭橋

立派な建物コース

1. 屋根神様
2. 四間道
3. 川伊藤家
4. 旧加藤商会ビル
5. 松重閘門

パワースポットコース

1. 圓頓寺
2. 屋根神様
3. 浅間神社
4. 白山神社
5. 洲崎神社
6. 法蔵寺（八角堂）
7. 住吉神社

むかしばなしコース

1. 白山神社
2. 泥江縣神社
3. 洲崎神社
4. 闇之森八幡社

- 堀川七橋コース
- 立派な建物コース
- パワースポットコース
- むかしばなしコース
- チェックポイント
- トイレ

チェックポイント

○スマートフォンをお持ちの方は、下記の4カ所でナビのスタンプを取得してください。
○スマートフォンをお持ちでない方は、下記の4カ所で写真を撮影してください。
○いずれも普通に見学できる場所にあります。

5 五条橋（東側橋名板）

10 納屋橋掘割跡（掘割跡の碑）

11 日置橋（西側橋名板）

12 古渡橋（東側橋名板）

見どころ案内

堀川七橋コース

堀川は、名古屋城下と熱田の海を結ぶ運河として徳川家康の命で慶長15年(1610)、福島正則により開削されました。江戸時代には、七つの橋が架けられ、五条橋、中橋、伝馬橋、納屋橋、日置橋、古渡橋、尾頭橋は、「堀川七橋」と呼ばれました。堀川の流れに沿って、のんびり歩いていただけるコースです。

① 辰之口水道大樋（たつのくちすいどうおおとい）

朝日橋と大幸橋の間の名古屋城外堀沿いにあります。『この樋は巾下御門枡形の北にあり樋の両側は石で組まれ底は南蛮たたきでできていた。東の口に立切(水止め)がありこれは、外堀の水位を一定に保つためであった。又西の端は切石の銚子口があり常に滝となり大幸川(現在の堀川)に落ちていた。』 と標札にあります。

② 堀川堀留の碑

朝日橋の東南角にあります。『堀川が開削された当時は、城の近くのこの地で堀留になっていたそうです。巾下御門に通じるため、多くの船が行きかい、今の洲崎橋付近に至る渡船が始まる萬延元年(1860)頃には、名古屋の交通の中心でもあった』と、碑にあります。

③ NHK放送記念碑

丸の内中学校の正門の脇にあります。ここは、中部地方におけるラジオ放送ならびにテレビジョン放送発祥の地です。放送開始40周年を記念し、昭和40年11月に建てられました。

④ 木挽町通（こびきちょうどおり）

木挽町は名古屋築城の際、木挽職人が作業場を置き、後には居住地となったところだそうです。木材業の中心は、元材木町・上材木町・下材木町と言われた三ヵ町と木挽町でした。藩では、この三ヵ町に限り、古渡・日置付近に木場をもつ特権を与えていたため、現在でも船も入れない納屋橋以北の堀川筋東側に材木商があるのは、このためです。

⑤ 五条橋

慶長15年(1610)清須越しの際に、清洲城下の五条川に架けられていた橋を、この地に移築したものです。そのため五条橋の擬宝珠(ぎぼし)には、堀川が開削された慶長15年より古い「慶長七年壬刀六月吉日」の銘があります(レプリカ。本物は名古屋城で保管)。もとは木橋でしたが、昭和13年(1938)にコンクリート製に架け替えられました。御影石の親柱、高欄、擬宝珠、石張舗装などの特徴があります。

⑥ 中橋

名古屋城の築城の際、堀川が開削されたときに架けられた橋で、五条橋と伝馬橋の中間にあったことから、中橋と名付けられたと言われています。現在の橋は、堀川に架かる現存する橋のなかでもっとも古く、大正6年(1917)に造られました。建設当時の華奢な鋼製橋脚、石積橋台などが残る貴重な橋です。平成26年(2014)には欄干や舗装等が改修されました。

⑦ 伝馬橋

東海道・宮の宿と中山道・垂井宿を結んだ美濃路に架かる橋で、五条橋とともに清須越しの際に移築されたそうです。明治19年(1886)改修時に今の六間(約11m)幅に、大正9年(1920)に単純RCアーチ橋に架け替えられたもので、中部地方で最古期のRCアーチ橋の一つです。

⑧ 錦通命名由来碑

錦橋の南西角にあります。錦通の名称の由来は、『錦通の名は古今和歌集収録の素性法師の和歌「見わたせば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける」に由来するとされています。広小路通と桜通のあいだの通りであることから、広小路通沿いにあった柳薬師の「柳」と桜通の「桜」を、素性法師がよんだ和歌の中の「柳桜」になぞらえ、下の句「錦なりける」から錦をとり、錦通や錦橋の名前が付けられたと言われています。』と、碑にあります。

⑨ 納屋橋

名古屋城の築城の際、堀川が開削されたときに架けられた橋で、付近の地名をとってこの名が付けられたと言われています。その後、幾度か架け替えられ、大正2年(1913)に鋼製のアーチ橋に改築されました。欄干の中央には堀川開削の総奉行・福島正則の紋所があり、両脇には郷土の三英傑である織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の紋所が飾られています。

⑩ 納屋橋掘割跡

納屋橋南の納屋橋遊歩道にあります。『江戸時代、この地には尾張藩の藩倉が建ち並んでいました。明治40年(1907)名古屋港が開港し、諸外国との貿易が始まると堀川の水運を利用し、輸出入品を積み下ろす拠点として納屋橋河畔にT字型の堀割が掘削されました。水路は石組の堅牢なもので、昭和20年(1945)の名古屋空襲で倉庫が焼失するまで活用された』と碑にあります。

⑪ 日置橋

江戸時代には桜と桃の名所であり、茶屋などが店を構え花見の舟もくり出すなどの賑わいを見せました。残念ながら現在は、かっての桜の名所の面影はありませんが、今でいう名古屋第一の観光地となったそうです。平成23年には名所の復活を目指して、ヤマザクラ3本が植えられました。明治14年(1881)以降2度の改築が行われ、現在の橋は昭和13年(1938)改築されたものです。

⑫ 古渡橋

橋の創設は古く、古渡志には鎌倉時代の幹線道路・小栗街道に架けられた橋であることがわかるとあります。寛保2年(1742)改築の記録があり、さらに明治11年(1878)・同24年(1891)・同38年(1905)それぞれ修築が行われました。

⑬ 尾頭橋（おとうばし）

江戸時代は、この辺りが城下の最南端であったそうです。佐屋街道の往還にかけられた橋でありますが、寛文5年(1665)橋を北に移し佐屋街道を改修しました。その後、安政3年(1856)に改築、明治に入って度々改修され、戦後道路の拡幅につれて現在のような橋に改められました。ここまで下って来ると、川幅も広くなると同時に、橋も長くなっていることが分かります。

5 松重閘門 （まつしげこうもん）

堀川と水位の異なる中川運河を結ぶために昭和5年(1930)に建設された閘門です。堀川の水位は、中川運河の水位よりも高いため錘(おもり)を上下して鉄の扉を動かし水位を調整し、堀川と中川運河の間の通船を可能にしましたが、陸上輸送の比重が大きくなり、昭和51年から閘門としての経済的生命を終えました。閘塔が美しい姿を留め、市の有形文化財に指定されています。

立派な建物コース

隠れた名古屋の街の魅力を再発見しながら、古き良き街並み、名建築を探訪していただけるコースです。

1 屋根神様

五条橋から四間道を南に入り、2本目の細い路地を入ったところにあります。長屋造の2階屋根の上や軒下にまつられている神様のことです。疫病と火災に対する守護祈願からまつられた名古屋独特の形式のもので、市内でもこの地域に多くあります。

2 四間道（しけみち）

堀川西岸の地区で、連続する土蔵や格子付の家など、昔の面影がそのまま残されています。元禄13年(1700)の大火のあと、堀川端の問屋筋の裏を拡張し道幅を四間(約7.3m)としたところからこの名がつけられたそうです。

3 川伊藤家

五条橋から西へ1本目の道を南に入ると、見えてきます。「清州越」の町人の家柄で、川伊藤家と呼ばれてきました。川岸に倉を設け、道を隔てて主屋が建ち、裏は四間道に接して土蔵が並びます。江戸後期の建物がよく遺され、当時の堀川筋商人の屋敷をよく示しています。外観のみご覧いただけます。

4 旧加藤商会ビル

納屋橋の北東角にあります。昭和6年(1931)頃に貿易商を営む加藤商会の本社ビルとして建てられました。昭和10年から昭和20年頃まで、建物内に当時のシャム国(現在のタイ王国)の領事館が置かれていました。その後、所有者が変わり、事務所や倉庫として使われたり、ビル全体が広告塔となっていたこともあります。平成12年(2000)に名古屋市の所有となり、平成13年4月に国の登録有形文化財となりました。テラコッタ(柱頭飾り)、外壁のレンガ調タイルやレリーフ模様が特徴的です。地下1階には、堀川の環境・歴史・文化に関する情報等の集積や展示を行うための堀川ギャラリーがあります。

パワースポットコース

日々の暮らしを守り、ご利益やご縁、絆につながるスポットを巡るコースです。

1 圓頓寺（えんどんじ）

五条橋から江川線の方へ歩いて行くと、江川線の右手前にあります。円頓寺商店街の名の元となった圓頓寺です。本堂内右脇間には、子どもの守護神にと藩祖義直公の側室より寄進された鬼子母神像を安置しています。名古屋城天守閣棟木の余材で刻まれたこの像は、5月18日の年1回御開帳されるそうです。

2 屋根神様

五条橋から四間道を南に入り、2本目の細い路地を入ったところにあります。長屋造の2階屋根の上や軒下にまつられている神様のことです。疫病と火災に対する守護祈願からまつられた名古屋独特の形式のもので、市内でもこの地域に多くあります。祭神の多くは、素戔嗚尊(すさのおのみこと)で、もともと庶民の現世的利益を願うものでした。住民の心と心を結ぶ連帯を作り出し、お互いに人間的なうるおいを感じ合う信仰的な場を生み出しています。

3 浅間神社（せんげんじんじゃ）

中橋から四間道へ入ると、鳥居が見えてきます。境内には、300年以上の樹齢を誇るケヤキがあります。『木花開耶媛命を主祭神とする古社であるが、創建は不詳。「尾張志」によると、正保4年(1647)この地に遷座したとある。毎年10月1日、2日に大祭が行われる。』と標札にあります。

4 白山神社（はくさんじんじゃ）

桜通の桜橋を東に渡ると、すぐ左側に通に面してあります。祭神は菊理媛命(くくりひめのみこと)。創建は明らかではありませんが、加賀国(石川県)の白山比咩神(しらやまひめのかみ)を勧請したのが始まりと言われています。応永・永禄の頃(1394～1569)は、泥江縣神社(広井八幡宮)の境内続きの末社でしたが、慶長の検地の際、境内が二分されました。昭和12年(1937)の桜通の開通により境内地は大幅に減少し、昭和39年に現在地に移りました。氏子を始め御神威を畏み慕う崇敬者等を諸事萬難より守護する、不思議な力があると信じられている自然石があります。

5 洲崎神社（すさきじんじゃ）

新洲崎橋の北東角にあります。貞観(じょうがん)年間(859～877)の創建といわれ、同社の文書には洲崎神社はその昔、此のところに地神(くにつかみ)の石神神社が祀られており、同神のみちびきにより素戔嗚命(すさのおのみこと)が奉斎され創建されたとあります。明治以前、この神社は、廣井天王、牛頭天王社、天王崎神社ともいい、昔は海に面した洲崎に鎮座していた社といわれていました。祭神は、中央に須佐之男命(すさのおのみこと)、左に五男三女神(ごなんさんにょしん)、右は稲田姫命(いなだひめのみこと)であり、のちに布都御魂命(ふつのみたまのみこと)も祀られました。この神社の和鏡は、市指定の文化財となっています。えんむすびの神の石があり、他にも火の神様、商売繁盛の神様などさまざまな神様が祭られています。

6 法蔵寺（八角堂）

柳橋を南に下ると、大型電気店が見えてきます。その北側にあります。阿弥陀如来像を本尊とし、本堂の八角堂内に安置しています。尾張徳川藩初代藩主徳川義直は儒学を奨励し、名古屋城内に孔子霊廟の先駆けとなる聖堂(学問堂)を建立、「先聖殿」と名付け、7代宗春の頃、城下の法蔵寺へ移築されました。先の戦禍で八角堂は焼失しましたが、平成16年(2004)に再建されました。開門(八角堂を見学できる日)は、毎月第1土曜日午前10時より午後3時までです。

7 住吉神社

住吉橋の北東角にあります。享保19年(1734)に摂州の住吉神を勧請したそうです。また、当初、新尾頭町道筋東側の小堂内に鎮座していましたが、宝暦12年(1762)に至り、社地を現所に定めたそうです。名古屋で一番古いと噂の『狛犬』や、名古屋の代表的俳人、圃暁(ほぎょう)、暁臺(きょうたい)、士郎(しろう)の句を一石に刻んだ句碑があります。

むかしばなしコース

神社の荘厳な空間の中で、ふと現実を忘れ、語り継がれるむかしばなしの時代にタイムスリップしていただけるコースです。

1 白山神社（はくさんじんじゃ）

桜通の桜橋を東に渡ると、すぐ左側に通に面してあります。神社の境内にそびえていた樹齢千年を超す楠の大木の伐採を秀吉が命じました。その夜、秀吉の夢枕に童子が立ち、「楠を切ってはならない、しかし楠で地蔵菩薩一体を彫れば願望が成就するだろう」と告げました。童子はこのとき、秀吉の枕の向きを変えたといわれています。

2 泥江縣神社 （ひじえあがたじんじゃ）

伝馬橋を南に下り、袋町通を入ったところにあります。桶屋米蔵の息子が狐に取りつかれた女に騙され、盛大な結婚式の準備をしてしまいます。ところが、女の持参金を当てにして相撲の勧進元をした米蔵は、結婚式の費用を払っても大金が手元に残るほどの大儲けをしました。人々は米蔵のことを狐福(きつねふく)だといったそうです。

3 洲崎神社（すさきじんじゃ）

新洲崎橋の北東角にあります。祭礼は、船祭りで有名だったそうです。また、五色の鈴の玩具が昔から知られており、大須新地の女性の方の信仰も厚かったそうです。

4 闇之森八幡社（くらがりのもりはちまんしゃ）

伊勢山中学校の北側にあります。八幡社の御手洗池にいる鮒と弁財天の池にいる尻切れの田螺(タニシ)は、瘧(マラリア)を治すまじないとして使われていました。また、日照りが続いて、田畑の水が不足する夏の日、田螺を社前に供えて雨乞いをすると必ず雨が降ったといわれています。本殿の西に源為朝使用の武具を埋めたといわれる鎧塚があります。